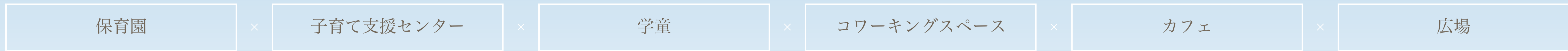


『水鞠園』と周辺環境の関係図 1/1000

建築内容



水鞠園と周辺との関係

対象敷地は「豊洲」「東雲」「辰巳」「枝川」4つの地区の囲まれた水路上の分岐点である。

豊洲:再開発によって充実した街並みに生まれ変わった街。タワーマンションや大型の商業施設が立ち並び、家族で暮らすのに人気なエリアで、治安の面でも安心。オフィス街もそばにあるため、夜になっても人通りが多く、暗い道が少ない傾向にある。燃焼人口の増加に伴い、小学校の新設や増設が進んでいる。また「豊洲ぐるり公園」の計画が進み、緑の多い町へと変化を遂げている最中である。

東雲:タワーマンションや企業のオフィス・倉庫などが並び、整然とした街並み。埋立地ならではの坂のない開放的な土地で、自転車や徒歩での移動はしやすい反面、空が広いため風が強く、冬は寒く夏は暑くなる。多くのタワーマンションが立ち並ぶと同時に、公園なども整備されており、身近に自然と触れ合えるエリアである。

辰巳:都心に近いため通勤に便利ではあるが、団地でほとんど埋め尽くされているため、実際に住むとなると物件が非常に少ないのが現状である。団地はかなり年季が入っていて、昭和にタイムスリップしたかのような懐かしい雰囲気が漂っている。「辰巳の森緑道公園」と「辰巳の森海浜公園」があり、緑豊かな広大な敷地で、スポーツやピクニックができる。春は桜並木がきれいで、花見も楽しめる。辰巳駅周辺は、犯罪件数が少ないエリアで、治安も落ち着いている。

枝川:主に高層マンションなどの集合型住宅が多く建ち並び、人口密度と世帯における平均所得がともに高いエリアである。住んでいる人よりもそこで日中活動している人の方が高いのが特徴で、周辺にはショッピングや飲食店を中心とした繁華街や病院、行政機関、公共交通機関などへのアクセスも良く、生活利便性に優れた住環境である。枝川1丁目の自然環境は、人口1人あたりの周辺公園面積が1㎡あり、これは東京都平均の4.2㎡と比べ少なく、緑化の進行為課題とされている。

「世界一勤勉」と言われている日本人。その「世界一勤勉」な日本人が働いている「日本」の経済が悪い方向に向かい続けているのは、世界情勢や日本の政策、働く環境の整備の不十分などさまざまな理由が挙げられるが、私は、根本は日本人ひとりひとりの「性格」だと思う。決められた仕事を忠実にこなすことや、命じられたことをコツコツと続けることは得意であり、与えられた仕事をきっちりこなすために残業や休日出勤も辞さない。そんな勤勉な労働者が日本経済の土台を支えているのも紛れもない事実かもしれない。

しかしその反面、自分の意思で行動できず「指示待ち人間」になってしまう人や、周りの目を気にしすぎて自分の意見を言えない人、職場の人間関係に悩み過度なストレスを抱えてしまう人が多い。また変化に対するリスクや反応を恐れ、柔軟な姿勢でルールや規則を根本的に見直したりこれまで長く続けてきたことをスパッと止めることが苦手な傾向にある。

人の脳は6歳までに9割完成するとされており、幼い頃の環境が人の人生に多大な影響を及ぼす。

私は、日本の社会をより良い方向に転換させるためには幼児教育を見直すべきであると考えている。

日本の保育園の多くは「一斉保育」かつ「同年齢保育」である。「一斉保育」では決められた時間に決められたことを全員で行う。これには集団行動に必要な社会性が身に付き協調性や忍耐力を育むことができるというメリットがある反面、自分で考えて行動するために必要な自主性を育みにくく、それにより子どもたちが受け身の行動に慣れてしまうこと、また子どもたちが自分の好きな遊び・得意な遊びを行う時間や自分の考え・アイデアを形にする機会が少ないため自由な発想が生まれにくくなるというデメリットがある。対して幼児教育において世界中から賞賛されているフィンランドが行っている「自由保育」は、子どもの主体性を尊重し自由度の高い環境作りが重視される保育法で、既定のカリキュラムに沿う必要がなく保育園にいる時間を子どもたちが好きなことをして過ごすことができるので、想像力を働かせて自由な発想で活動することが可能であり、自主性を養うことができる。

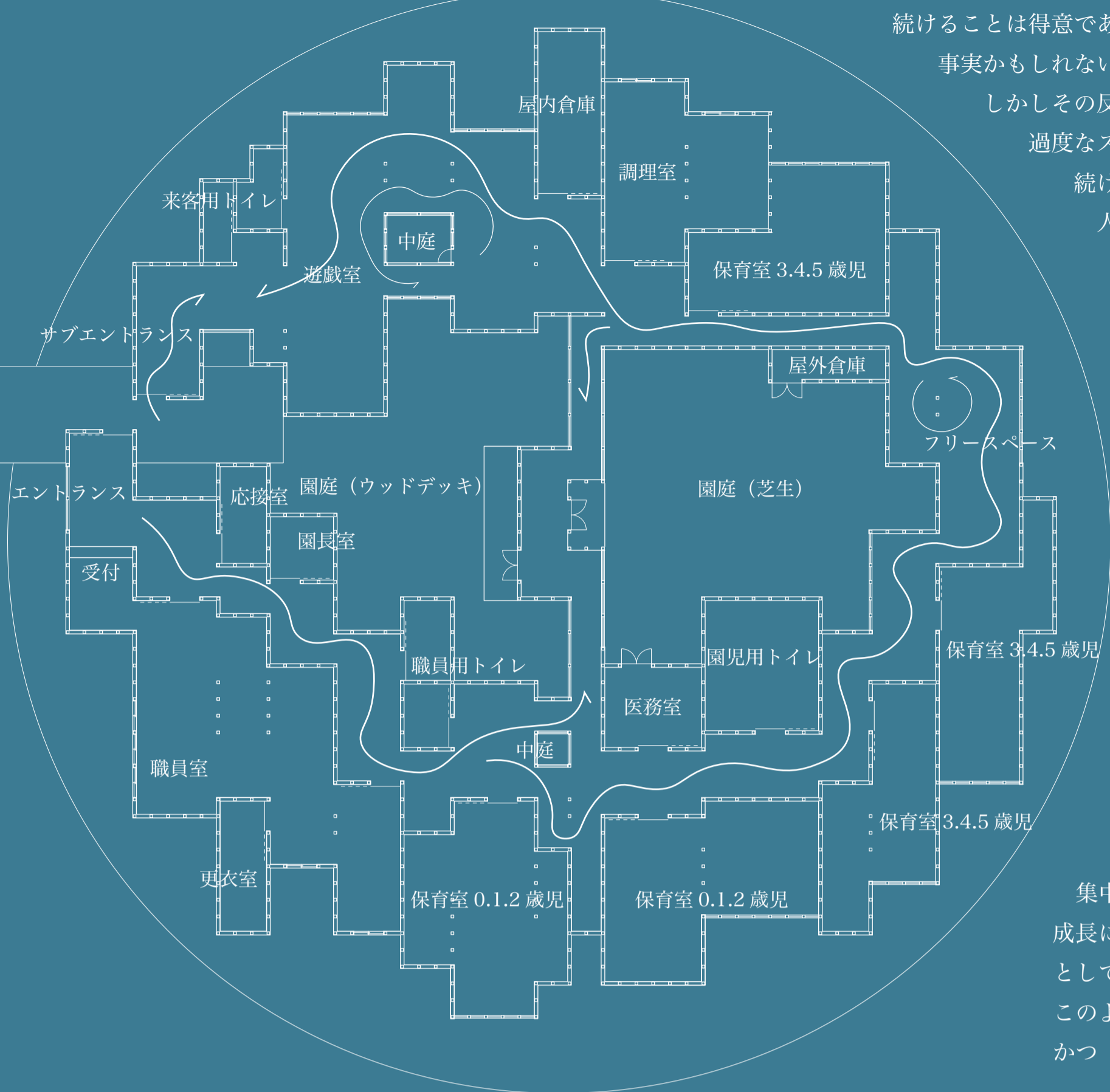
また、保育士が子どもひとりひとりの興味や関心に気付きやすく、

子どもの興味に沿った行動を保育士が提案することで、子ども

は意欲的に取り組むことができる。苦手なことや嫌いなことに取り組む機会が減り遊びや行動に偏りが出るというデメリットもあるが、好きな活動に長時間集中する経験は、

集中力の養成や新しい知識の習得に役立つため、子どもの成長にとって重要であり、子どもの興味や関心をきっかけとして子どもの個性を存分に伸ばすことができる。

このようなことから、保育園「泉 izumi」では「自由保育」かつ「異年齢保育」を採用する。



保育園『泉 izumi』 「泉」直訳：水が地中から自然に湧き出ているところ。またその水。

比喩的に、物事の出てくるもと。源泉。

願い：泉のように、「色々な才能や魅力が自然と湧き出る場になってほしい」という願いをこめる。



複数の円環構造とジグザグ
複数の円環構造により子どもの脳を刺激。迷路のような園の中を自由気ままにかけぬけることができる。ジグザグな廊下により生み出される空間の中に自分のお気に入りの場所を見つける。

2種類の園庭
廊下で園庭を区切り、風が強い地域のため砂は使わず芝生とウッドデッキの2種類の園庭をつくる。遊ぶ場所を気分に変える。クラスで分けたり、片方をイベントで使用するなども。

子育て支援センター『凧 nagi』

「凧」直訳：風がやみ波が穏やかになること。

願い：凧の、波が穏やかになることから想起して、この施設を利用することで、「子育てに関する問題や自分自身の成長に関する悩みなどが解決に向かい、穏やかな家庭・心になってほしい」という願いをこめる。



子どもの遊び環境は近年さまざまな変化を遂げている。時間・空間・仲間が減少し、スポーツや外遊びが減少したのに対して、家の中でのテレビゲームやインターネットを用いた一人遊びが増加している。さらに子どもは、他人との関わりや共同経験を通じて社会性を身につけていくとされているが、近年では集団遊び、異年齢集団の減少が問題視されている。遊びの中で群れることを経験していない今の子どもたちは、対人間関係力を養う絶好の機会を逸しているといえる。加えて近年では子どもの外遊びにより発生する音が迷惑行為として問題視されている。そのことが外遊びの減少にさらに拍車をかけていると思われる。また、子どもの体力・運動能力の低下が問題とされて久しく、児童の体力・運動能力は1985年をピークに低下傾向を示し、現在においても低い水準に停滞していることが明らかとなっており、肥満が増加している。

育児を楽しみながら行っている母親がいる一方で、育児にストレスを感じているという声もよく耳にする。親の強い育児ストレスは虐待のリスクとなることが指摘されており、令和3年度の児童相談所による児童虐待相談対応件数は20万件を超え、過去最多を更新した。虐待に至るような親子関係を防ぐためにも、親が育児ストレスに効果的に対処できるような支援方法を確立することが重要である。中でも都市部では、子育てを手伝ってくれる親や親戚等が近くに住んでおらず、基本的に母親と父親で子育てをやりくりしていることが多い。核家族が増え、地域の人々との人間関係が稀薄化していることで、育児を通じた対人関係の形成・維持が困難となり、孤独感が生じやすくなるとともに、孤独感が対人関係の形成・維持を一層困難にしている。

以上により、都市部における開放的な子育て支援センターの設計により、都市に住む子育て世帯が抱える問題を改善することを目指す。

